

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	数学ⅡB（都市・環境系）	
科目基礎情報							
科目番号	0092		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 3		
開設学科	創造工学科（一般科目）		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		3		
教科書/教材	教科書：高遠節夫他著「新基礎数学」、「新線形代数」（大日本図書） 補助教材：高遠節夫他著「新基礎数学問題集」、「新線形代数問題集」（大日本図書）、自作プリント						
担当教員	有馬 隆司						
到達目標							
次の内容を理解して基本的な計算問題を解くことができる。 1）図形（2次曲線）と式 2）場合の数と数列 3）ベクトル 4）行列							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	「図形（2次曲線）と式」を理解して色々な計算問題を解くことができる。		「図形（2次曲線）と式」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。		「図形（2次曲線）と式」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。		
評価項目2	「場合の数と数列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。		「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。		「場合の数と数列」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。		
評価項目3	「ベクトル」を理解して色々な計算問題を解くことができる。		「ベクトル」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。		「ベクトル」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。		
評価項目4	「行列」を理解して色々な計算問題を解くことができる。		「行列」を理解して基本的な計算問題を解くことができる。		「行列」を理解して基本的な計算問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	「図形（2次曲線）と式」、「場合の数と数列」、「ベクトル」、「行列」の基本概念を理解し、様々な計算問題を解くことを学ぶ。						
授業の進め方・方法	数学の授業では次々に新しい概念や考え方に接することになり、多くの問題を解くことによって理解を深めることができる。授業は座学講義と問題演習を中心に進め、必要に応じて課題を課して基礎的計算力・応用力の養成を図る。学業成績の成績が60点未満のものに対して再試験を実施する場合がある。この場合、再試験80％，課題等20％の割合で再評価を行う。						
注意点	1年で学んだ数学ⅠAおよび数学ⅠBの知識を要する。授業の進み方は中学時代よりも速く、一旦つまずくと先に進むのが困難となるので、日々の予習・復習の習慣を身につけ、授業の内容はその日のうちに理解するよう心がけること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	いろいろな2次曲線		放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。		
		2週	いろいろな2次曲線		放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。		
		3週	2次曲線の接線		放物線、楕円、双曲線の接線の方程式を求めることができる。		
		4週	不等式と領域		簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。		
		5週	不等式と領域		簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。		
		6週	練習問題		2次曲線、領域に関する基本的な問題が解ける。		
		7週	場合の数		積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。		
		8週	順列		簡単な場合について、順列の計算ができる。		
	2ndQ	9週	組合せ		簡単な場合について、組合せの計算ができる。		
		10週	いろいろな順列		円順列、重複順列、同じものを含む順列の計算ができる。		
		11週	二項定理		二項定理を用いて多項式を展開できる。		
		12週	練習問題		場合の数に関する基本的な問題が解ける。		
		13週	数列		数列の定義が理解できる。		
		14週	等差数列		等差数列の一般項やその和を求めることができる。		
		15週	等比数列、練習問題		等比数列の一般項やその和を求めることができる。		
		16週	前期定期試験				
後期	3rdQ	1週	いろいろな数列		総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。		
		2週	漸化式と数学的帰納法、練習問題		漸化式で表された数列の一般項を求めることができる。数学的帰納法を用いた証明ができる。		
		3週	ベクトル、ベクトルの演算		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		
		4週	ベクトルの成分		平面ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。		
		5週	ベクトルの内積		平面ベクトルの内積を求めることができる。		

		6週	ベクトルの平行と垂直、ベクトルの図形への応用	ベクトルの平行・垂直条件を利用して問題を解くことができる。
		7週	直線のベクトル方程式、平面ベクトルの線形独立・線形従属、練習問題	媒介変数による直線の方程式を求めることができる。平面ベクトルの線形独立を理解し、それに関する問題が解ける。
		8週	空間座標、ベクトルの成分、ベクトルの内積	空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。空間ベクトルの内積を求めることができる。
	4thQ	9週	直線の方程式、平面の方程式	空間内の直線・平面の方程式を求めることができる。
		10週	球の方程式、空間ベクトルの線形独立・線形従属、練習問題	球の方程式を求めることができる。空間ベクトルの線形独立を理解し、それに関する問題が解ける。
		11週	行列の定義、行列の和・差、数との積	行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積を求めることができる。
		12週	行列の積、転置行列	行列の積を求めることができる。
		13週	逆行列、練習問題	逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		14週	消去法、逆行列と連立1次方程式	消去法を用いて連立方程式を解くことができる。
		15週	行列の階数、練習問題	行列の階数を求めることができる。
		16週	後期定期試験	

評価割合

	定期試験	達成度試験	課題等	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0